

# こころ観の思想的・比較文化論的基礎研究

——人類はこころをどのようにとらえてきたか？

鎌田東二（こころの未来研究センター教授）＋ 奥井 遼（こころの未来研究センター上廣こころ学研究部門特定研究員）

## ■概要

人類は「こころ」をどのようにとらえてきたか、宗教・哲学・芸術・思想・科学の観点からアプローチし、「こころ」観の多様性を浮き彫りにしつつ、その多様性の中の共通原理に迫る。そのための基礎研究として、思想的・比較文化論的な考察を加え、「こころ」観の変遷や多様性を俯瞰する。その際、霊長類からヒトへの進化の視点を念頭に置く。また、「こころ観」研究から抽出される論点を整理していく。

具体的には、日本列島に生きた人々がどのようなこころを持ち、こころについての思想を持ったのかを通史的に見てゆく。①縄文遺跡から見る日本列島人のこころ観、②弥生遺跡・古墳から見る古代人のこころ観、③古事記・日本書紀・古語拾遺などの神話と古代神道から見る日本人のこころ観、④仏教から見るこころ観、⑤儒教から見るこころ観、⑥近代日本のこころ観、⑦空海の「秘密曼荼羅十住心論」と最澄の「道心」（山家学生式）観などについて、研究発表をしながら議論し、考察を加えてゆく。同時に、サルやチンパンジーやゴリラとヒトのこころについての連関と差異について、またこころ観の文化差や地域差や時代差、あるいは精神疾患との関係について考察を加える。

この「こころ観の研究」によって、さまざまなこころ研究の思想的前提を確認し、共通の土俵作りや、それぞれの研究者のよって立つ位置の自覚を促し、多様性を認めつつ、「こころ」モデルを析出・整理する。

## ■2011年度活動実績

### I 研究会・シンポジウム

#### ・第1回研究会

2011年5月16日、京都大学こころの未来研究センター小会議室2にて開催。詳細はワザ学の報告を参照。

#### ・第2回研究会（ワザ学研究会・負の感情研究会との合同研究会）

2011年7月28日、京都大学東南アジア研究所東棟1階会議室107号室にて開催。発表は濱野清志京都文教大学教授、永澤哲同大学准教授、指定討論は井上ウイマラ高野山大学准教授、熊谷誠慈京都大学白眉プロジェクト助教。

脳科学、臨床心理学などの知見から、「こころ」とその変容の諸相について検討した。外界や内界のイメージそのものが刺激となって脳が動いていること、刺激を受けてから意識による認識までの間にタイムラグがあることから、「こころ」における情緒的・認知的な多様な働きを確認することができた。また、「トゥクタム」と呼ばれる、瞑想による身心の特殊変容事例の報告から、身心変容に関する技法の意義を明らかにした。

#### ・一般公開シンポジウム

京都府・京都大学こころの未来研究センター主催、古典の日推進委員会後援で2011年11月23日、稲盛財団記念館3階大会議で「ワザとこころ～葵祭から読み解く」をテーマに開催。第1部は映像『京都歳時記 葵祭』上映と大重潤一郎監督（NPO法人沖縄映像文化研究所理事長）の講演「京の祭り」と沖縄の祭りを比較して」。第2部はパネルディスカッション、嵯峨井建賀茂御祖神社禰宜・京都大学非常勤講師（神社祭祀研究）「下鴨神社（賀茂御祖神

社）の葵祭と神饌」、村松晃男賀茂別雷神社権禰宜（NPO法人葵プロジェクト理事・事務局長）「上賀茂神社（賀茂別雷神社）の葵祭と競馬と葵」、やまだようこ京都大学大学院教育学研究科教授「京の祭りのワザとこころを探る」、司会は鎌田東二。

京都の伝統文化の根幹をなす古代からの祭り「葵祭（賀茂祭）」を通して、そこに内在する「ワザとこころ」を読み解いた。葵祭を支えてきた神官の語りから、京都を代表する祭りである葵祭における儀式、とりわけ「神饌」「走馬」に焦点を当て、その構造と物語の歴史的意味と今日的な意味を検討した。その際、単に京都の伝統文化を分析するばかりではなく、沖縄の「神の島」と呼ばれた久高島の伝統的祭祀などと比較することによって、より深く広く、「葵祭」の「ワザとこころ」のありどころを確認することができた。

## II 「こころ」に関する語彙のデータベース作成

2011年度のこころ観研究会では、「こころ」に関する語彙のデータベース化を図るため、岩波書店発行の「日本古典文学大系」全100巻所収の「こころ」に関する語彙を検討した。上古から中世まで約400件の文献を調査したところ、全文字数に対する「心」の頻出割合（パーミル）は、表1のように推移していることが明らかになった。

表1

|          | 上古     | 中古    | 中世    |
|----------|--------|-------|-------|
| 歴史・神話・小説 | 0.19   | 0.394 | —     |
| 物語       | —      | 2.854 | 1.222 |
| 小説・説話    | —      | 1.216 | 2.609 |
| 和歌・歌謡    | 0.319  | 1.912 | 1.064 |
| 連歌       | —      | —     | 2.803 |
| 漢詩・漢文    | 0.745  | 1.272 | 0.791 |
| 評論・国学    | —      | 4.302 | —     |
| 日記・紀行    | —      | 2.092 | —     |
| 劇文学      | —      | —     | 2.876 |
| 随筆、随想・説教 | —      | 5.441 | 2.334 |
| 合計       | 0.2882 | 3.094 | 1.737 |